

5 追加機能の説明と使用方法

5-1 制御文字変換出力機能

読み取ったバーコードに制御文字が含まれていた場合に、制御文字を他の文字に置き換えるか、もしくは削除して出力することができます。置換前もしくは削除対象の文字は、任意の制御文字を複数指定することができます。置換後の文字は、任意の制御文字以外の文字を複数指定することができます。

置換・削除可能な文字(置換前の文字)

- ・ ASCII コード= 00h~1Fh、7Fh の制御文字

置換後の文字

- ・ 任意の半角英数字・記号(ASCII コード=20h~7Eh)

■ 制御文字の変換定義ファイル

変換方式は、下記の変換定義ファイルで指定します。変換定義ファイルを下記の保存先に置いた状態でイメージ読み取りツールを起動すると、設定内容が反映されます。

変換定義ファイルがない場合は、制御文字の変換は行われません。

ファイル名 : IMGRead_R.ini

保存先 : ¥Windows フォルダ

IMGRead_R.ini ファイルの形式

[ConvSrc]	セクション[ConvSrc]に、置換対象の文字を指定します。
CodeNN=0xHH	「NN」部分に 01 から始まる通し番号を指定してください。最大 33 個まで指定することができます。
(例)	「HH」部分に制御文字の ASCII コードを 16 進数で指定してください。
Code01=0x1D	
Code02=0x0A	
[ConvDst]	セクション[ConvDst]に、置換後の文字を指定します。
CharNN='X'	「NN」部分に、上記のセクション[ConvSrc]に対応する通し番号を指定してください。最大 33 個まで指定することができます。
(例)	置き換える文字は、左記のようにシングルクォーテーションで
Char01='/'	囲って、「X」部分に任意の 1 文字を指定してください。
Char02='@'	
[Delete]	セクション[Delete]に、削除対象の文字を指定します。
CodeNN=0xHH	「NN」部分に 01 から始まる通し番号を指定してください。最大 33 個まで指定することができます。
(例)	「HH」部分に制御文字の ASCII コードを 16 進数で指定してください。
Code01=0x02	
Code02=0x03	

- 上記の例では、制御文字 0x1D を '/' に、0x0A を '@' に置換して出力します。制御文字 0x02、0x03 は削除されます。
- セクション[ConvSrc]と[Delete]に同一の文字が指定されていた場合は、Delete の指定が優先されます。
- セクション[ConvSrc]に指定された番号が[ConvDst]にない場合、またはその逆の場合は、変換は行われません。

■ 制御文字の変換例

以下のバーコードデータを読み取ったときの変換例を以下に示します。

制御文字の変換例

IMGRead_R.ini	変換前のバーコードデータ	変換後のバーコードデータ
[ConvSrc] Code01=0x1D Code02=0x0A		
[ConvDst] Char01='/' Char02='@'	01230x0A45670x1D890x0201 (青文字部分が制御文字を表しています)	0123@4567/8901 ・0x0A は'@'に、0x1D は'/'に置換されます。 ・0x02 は削除されます。
[Delete] Code01=0x02 Code02=0x03		